

月刊

税理士事務所

CHANNEL

●監修●
ミロク会計人会連合会

2013.11

No.387



タイトル:九十九島と鳥海山
撮影:田口 則雄(東北ミロク会計人会)
場所:秋田県にかほ市

11

- 事務所訪問 若山恵佐雄税理士事務所 ……2
- ご当地自慢 岩手県久慈市 ……5
- シリーズ企画「経営革新等支援機関の動向と高まる税理士への期待①」 ……8
- 我が事務所の顧問先紹介 (株)菱屋酒造店 ……12
- 連合会 INFORMATION ……14
- ミロクシステムQ&A『iCompass 顧問先アプリケーション(よくあるお問い合わせ)』 ……15
- リレーエッセイ 東北ミロク会計人会 大友 聡 ……19

顧問先を力強く支えるべく 経営指導を軸にした事務所を構築

事務所訪問



若山恵佐雄税理士事務所

夏に開催されるねぶた祭りには、延べ300万人以上が訪れるとも言われる青森県青森市。市街地から少し離れた住宅地に事務所を構える若山恵佐雄税理士事務所の所長・若山恵佐雄先生は、開業時から顧問先の経営指導に力を入れておられます。その取り組みの内容と具体的な効果について、若山先生にお聞きしました。

税理士という職業に憧れ、 通信教育で資格を取得

——開業の経緯をお聞かせください。

若山恵佐雄所長（以下、敬称略） 中学卒業後、建設会社で働き始めたのですが、そこで初めて税理士という職業があることを知りました。経営者と対等な目線で仕事している姿が印象に残り、次第に憧れを抱くようになって、通信教育で簿記の勉強を始めたのです。その後、大手電機メーカーの販売会社での勤務を経て、青森県商工会連合会で経営指導員として実務経験を積みながら勉強を続け、35歳のときに税理士資格を取得し、事務所を開業しました。

——会計事務所に勤務することなく開業されて、ご苦労も多かったのではな

いですが。

若山 開業から半年くらいは毎日電話掛けをしました。なかなか顧問先が増えずに苦労しました。そこで、以前働いていたツテを頼り、商工会議所で青色申告などの無料セミナーを開催する機会をいただきました。これにより、少しずつ事務所の知名度を高めることができ、顧問先も増えていったのです。さらに追い風となったのが、1989年の消費税施行でした。地元のテレビ局が私の開催する消費税対策のセミナーを密着取材してくださり、それを契機に顧問先が一気に増え、事務所の規模も拡大しました。

ただ、短期間で急速に組織が大きくなった弊害もありました。当時は事務所の経営理念や人材育成の方針なども



所在地／青森県青森市筒井ハツ橋1372-1
TEL／017-738-8833
FAX／017-738-8827
設立／1984年
職員／28名
導入システム／ACELINK NX-Pro
<http://wakayama-zeirishi.tkcnf.com/pc/>

定めていなかったもので、組織としての一体感が保てなくなつたのです。結果的に、主力として期待していたメンバーが抜けて大幅な戦力ダウンを余儀なくされました。その教訓を生かして、現在は事務所としての理念を明確に打ち出し、その浸透を図っています。

—— 貴事務所の理念とは、「活力ある経営ができるよう支援すること、地域発展に貢献する」ですね。会計・税務サービスのみなならず、顧問先の経営指導にも注力されています。

若山 商工会連合会で経営指導員をしていたとき、中小企業の経営改善等に携わる中で、次第にやりがいを感じるようになりました。そして、もともと身近な存在として中小企業の役に立ちたいと思っていたのですが、当時は経営に関する知識が不足しており、経営指導の方法を模索する毎日でした。そこで、開業して5〜6年経った頃から、共により良い会計事務所のあり方を考えられる仲間を求めて、県外の税理士向けのセミナーに参加するようになりました。そこで知り合った方々と研究会を立ち上げ、顧問先の経営指導に関する情報交換や現場で直面した課題などを共有することで、自分の中にノウハウを蓄積させていきました。

また、以前ITコーディネーターの資格を取得する際、バランス・スコア

カード(BSC)※1を知り、経営には一定の定石があるのだと実感しました。それからさまざまな経営理論を学び、自分なりのメソッドを確立していったのです。

活動効果測定・改善を繰り返すことで、組織は変わる

—— 具体的にはどのような経営指導を行っているのでしょうか。

若山 経営改善をする上で重要になるのが、自社の今後のあるべき姿を描いた上で、現在の事業領域を見直すこと。中小企業は、大企業のような資本力やリソースがないので、限られた自社の経営資源を選択と集中によって最大限に生かすことが肝要です。そこで、私が経営支援を行う際には、まず、3C分析※2やSWOT分析※3といったフレームワークを用い、絞り込むべき事業領域を定めるようアドバイスします。

方針が決まったら、次はそれを実現するための戦略や経営計画を立案します。そして、経営目標を達成するための事業活動を行い、その効果を多面的に分析し、結果を次の活動に生かす、といったように、絶えずPDCAサイクル※4を回し続けることで、組織は少しずつ変わっていくのです。

当事務所では経営支援部を設けており、そこに所属する2名の職員と私で

顧問先の経営支援を行っています。—— 一連の経営指導を円滑にするツールを開発されているそうですね。

若山 私が積み重ねてきたノウハウを仕組みとして「見える化」したいと思い、最初に開発したのが、事業領域の絞り込みや経営計画書の作成をサポートする「戦略参謀」というソフトウェアです。現状分析に始まり、財務計画や経営戦略の策定、会社と個人の目標設定、経営計画管理までを行うことができます。さらに、会社全体で決めた方針や目標を、現場がどの程度達成しているかを確認し、うまくいっていない場合には原因の分析もできる「We b軍師」というクラウドサービスも開発しました。クラウドなので経営層から現場の従業員までリアルタイムに情報を共有でき、PDCAサイクルを回すのに役立ちます。なお、どちらのツールも他の会計事務所が顧問先支援のために導入することができます。

—— これまでに学ばれた理論やこういったツールを活用して、顧問先の経営支援を多面的に行われているんですね。**若山** はい。ただ、経営は理論やツールだけでは改善できません。何よりも働く人の参画意識を高めることが必要だと感じています。だから、私は経営指導の初期段階において、顧問先の会議を活性化させることに力を入れてい

ます。例えば、従業員全員でSWOT分析をする機会を意図的に設け、現場で働く人たちの本音を引き出します。そうすることで従業員にも経営者の視点を持つてもらい、自社が抱える課題などを共有するのです。すると、経営会議の内容も「課題解決のために我々がすべきことは何か」といったように、前向きなものになります。

—— 実際に成果は上がっていますか。**若山** 私自身もこれらの手法を駆使して顧問先を指導していますし、「戦略参謀」を導入している会計事務所が年に1回集まって、顧問先の経営指導に関する事例を共有する場を設けているのですが、これまで赤字経営に苦しんで



職員さんたちは、広々とした事務所で働いています



「これからも顧問先の経営支援を軸にした活動を展開したい」と話す
若山恵佐雄所長

いた企業が3年で黒字に転換した事例や、粗利率を45%から51%に引き上げた事例などが報告されています。

「活発な勉強会」「後継者育成塾」を開催

——他にも、顧問先に提供している独自のサービスはありますか。

若山 経営意識の高い経営者を育てるため、3年ほど前から顧問先の次期経営者を対象に、「後継者育成塾」を企画・開催しています。最初は私が経営理論などを一方的に話していましたが、活発な勉強会になるように、グループディスカッションや、自社の戦略を立案し発表し合う参加型のセミナーへと形態を変えていきました。やはり、話

を聞くだけではなく、自分の考えや意見を表に出し、それを議論し合うことが参加者の成長へとつながるのです。

同塾では、環境分析をはじめ、経営計画書の策定、財務管理に人材育成と組織作り、マーケティング理論など、経営の原理原則と環境の変化に適應できる素養を身に付けてもらいます。参加者からは、「経営とは何かが分かった」「経営に対する気持ちの変化、そして行動の変化も起きました」といった感想が寄せられています。

——事務所はどのような体制で経営されているのですか。

若山 職員数は28名。前述した経営支援部、会計・税務サービスを担当する財務支援部、事務所の事務業務全般を

税理士までの道のり

若山先生は、中学卒業後に就職した建設会社で税理士という職業を知り、通信教育で簿記の勉強を開始されたそうです。その後、大手電機メーカーの販売会社、青森県商工会連合会と職場を変える中でも勉強を続け、35歳のときに晴れて税理士資格を取得されました。なお、大手電機メーカーの販売会社では営業職として働かれ、新規顧客開拓の重要性とノウハウを学び、その経験が事務所開業後、顧問先を獲得する際に役立ったそうです。

- ※1 戦略・ビジョンを4つの視点(財務・顧客・業務プロセス・学習と成長)で分類し、具体的な行動などを設定するためのフレームワーク
- ※2 Customer(市場・顧客)、Competitor(競合)、Company(自社の頭文字をとった分析手法。この3つの視点から経営課題の発見や事業戦略の見直しを行う
- ※3 自社の強み、弱み、機会、脅威という4つの要因を抽出し、事業計画立案等に生かす分析手法
- ※4 事業活動における生産管理や品質管理などを円滑に進めるためのフレームワーク。Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)の4つで構成されることから、この名称になっている。

担当する総務部、そして他の会計事務所とのネットワーク強化に向けた施策等を実行する戦略情報室の4つの主要部門を設けています。当事務所では「総力戦」をモットーに、全職員が経営支援ツールを使いこなせるようになるための指導に力を入れています。

——今後の目標を教えてください。

若山 これから力を入れようと考えているのが、少しでも多くの中小企業が経営支援を受けられるように、同じ志を持つ会計事務所とのネットワークを広げることです。「後継者育成塾」は、他事務所の顧問先の後継者にも門戸を開いていますし、これまでに「戦略参謀」などの導入を通じてきた全国の会計事務所とのネットワークも強化す

べく、当事務所の戦略情報室が中心となり、上述した経営指導の成功事例を共有する機会などを積極的に設けています。また、これまでの活動を通じて、これからの会計事務所のあるべき姿も少しずつ見えてきました。記帳代行や決算書作成などの業務では他事務所と差別化を図るのは難しいですが、経営指導に重点を置き、中小企業を力強く支える会計事務所の需要は今後ますます高まっていくと考えます。私は現在65歳。理想の組織をしっかりと構築し、後継者となる35歳の息子に事務所を譲るのも今後のテーマです。

——本日はありがとうございました。

若山恵佐雄税理士事務所のますますのご発展をお祈り申し上げます。

岩手県久慈市

案内人

和久 喜美男 所長
(和久喜美男税理士事務所)

一大旋風を巻き起こしたNHK朝の連続テレビ小説『あまちゃん』。今回はその舞台となった、私の住む岩手県久慈市にスポットを当ててみたいと思います。『あまちゃん』は年玲奈さんが演じる主人公の天野アキが、久慈市で海女さん、そして東京でアイドルとして活躍し、成長していく姿を描いたドラマです。その人気は舞台となった当地にも及び、連日大賑わいです。そこで、今回は『あまちゃん』ゆかりのスポットはもちろん、それ以外の魅力についてもご案内したいと思います。

『あまちゃん』ロケ地「小袖漁港」で海女さんによる素潜り実演

まずは主人公のアキが海女となり、素潜りにチャレンジしていた小袖漁港に向かってみます(写真①)。周囲には

「つりがね洞」や「かぶと岩」といった

見所が満載なのですが、その道は車一台がどうにか通れる程度なので、運転手の方は常に対向車線に気を配らないといけません。そんな細い道を抜けると、小袖海女センターに着きます。ここには『あまちゃん』のオープニングをはじめ、さまざまな場面に登場したロケ地があります。劇中で小泉今日子さんが演じる天野春子(アキのお母さん)が落書きした灯台や漁協の建物など、『あまちゃん』を見たことがある人であれば、思わず「あの時の場所だ」とピンと来ること間違いなしです。また、この界隈には「北限海女の里」と記された石碑がありますが、これは久慈市宇部町の住民が今年3月に建立したものです。北限海女とは脚本家の水木洋子さんが1959年のNHKラジオオドラマのシナリオを書くためにこの地を訪れ、小袖浜を舞台にした『北限の海女』というラジオドラマを製作し

たことに由来しています。

ちなみに、ここでは実際に夏になると地元の海女さんたちが海女衣装に身を包み、素潜りでウニやサザエを採っています。その様子は500円で見学可能です。また、海女の衣装を着て記念撮影することもできるので、記念に一枚撮ってみてはどうでしょうか。東日本大震災の際には、2010年に完成したばかりの小袖漁港「小袖海女センター」が流失してしまい、現在はプレハブの建物だけしか残されていませんが、海女さんたちの元気は今も健在です(写真②)。

久慈市を代表するご当地グルメ「まめぶ汁」と「豆腐田楽」

『あまちゃん』で一躍有名になったのが、「まめぶ汁」というご当地グルメです(写真③)。劇中でもたびたび登場し、「しょっぱえのだから、甘えのだから、わけわがね」と評され、その度ごとに笑



① 小袖漁港に向かう道の途中には、付き出た岩礁が印象的な海岸線が続く



② 小袖漁港では、毎年夏になると地元の海女さんたちが素潜りの実演を行っている



③ 全国的に知られるようになった、まめぶ汁。お味は食べてからのお楽しみ



上:久慈市と周辺の住民にとってのソウルフードである豆腐田楽 下:地元食材をぎっしりと詰め込んだ琥珀井は、非常に美味

いを誘いました。この「まめぶ」とはクルミと黒砂糖が入った団子のことでもともとは行事食として、正月や結婚式などのお祝いの際に作られていたものだそうで、その形が「まり麩」に似ていたことから「まめふ」↓「まめぶ」となりました。

「まめぶ汁」は「まめぶ」を豆腐や野菜、キノコなどと一緒に煮たものなのですが、実は地元でも日常的に食べるものはありませんでした。ところが、久慈市山形町の荷軽部青年会が久慈市をPRするためにこのまめぶ汁を活用したところ、『あまちゃん』に取り上げられたこともあってブレイクし、瞬く間に全国的に知られるように。今では飲食店などもメニューに加えているので、久慈市に来れば気軽に「まめぶ汁」を食べることができます。肝心のお味は、食べてみてのお楽しみとい

うことです。

さて、劇中では「まめぶ汁」がよく取り上げられますが、久慈市周辺のソウルフードとして「豆腐田楽」を忘れるわけにはいきません(写真④)。これは豆腐にニンニク味噌を付けて、囲炉裏端などで炙ったもの。最近では囲炉裏のある家はほとんどないので、フライパンなどで焼いて作ります。この「豆腐田楽」がおもしろいのは、家や地域によって味付けが違うことです。たとえば、ニンニクが利いたものやそうでないものがあるといった具合に、人によって思い出の味が違うわけです。外から来た方は道の駅やスーパーのお惣菜コーナーで買うことができるので、「まめぶ汁」と一緒に味わってみてください。

気軽に地場のおいしい魚介類を堪能したいのなら「道の駅くじやませ土

風館」の中にある地場食材レストラン「山海里」がお勧めです。この店でリーズナブルに旬のネタを楽しみたい時は「漁師なげこみ井」(1200円)、少し贅沢したい時には「琥珀井」(写真⑤、2300円)がお勧めです。琥珀井は一見すると「なげこみ井」と同じような海鮮丼なのですが、ご飯の下にはウニ、ホウレンソウ、そして国産牛のステーキが入っています。また「琥珀井」を注文すると、特典として久慈原産琥珀ストラップ(または琥珀の森石鹸)をもらえるので、お土産探しにも最適かもしれません。

久慈駅前の観光スポット 「モカ」と「まちなか水族館」

『あまちゃん』ゆかりの地ということで、JR八戸線と三陸鉄道の久慈駅から程近い喫茶店「モカ」にも足を伸ばしてみましよう。1960年代後半に創業したというこのお店はまさにレトロな純喫茶。つついっ長居してしまいそうなゆっくりとした時間が流れています(写真⑥)。

撮影中は『あまちゃん』のキャストやスタッフの方々が頻りに訪れていたそう、店内を見渡すとキャストの方々のサイン色紙が壁に飾られています。喫茶店にしては珍しく、夜中の23時59分まで営業をしているそうで、カ



大人気のたまごサンド。フワフワの卵と特製ソースが味の決め手



レトロな純喫茶モカには、ゆっくりとした時間が流れる



まちなか水族館には、東京海洋大学客員准教授の「さかなクン」が寄付した、展示生物やイラストが並ぶ

ウンターの後ろにはウイスキーやブランドーなども並んでいます。どこことなく『あまちゃん』に登場する喫茶店「リアス」に似ているような気がすると思ったら、やはり「リアス」のモデルになったお店だそうです。こちらのお店のお勧めは、何といても「たまごサンド」。『あまちゃん』のキャストやスタッフの胃袋を見事に掴んだ逸品で、フワフワの卵とパンに塗られた特製ソースが実に美味です。

久慈駅の近くにはもう一つ素晴らしい観光スポットがあります。それが「まちなか水族館」です(写真⑦)。この水族館の前身は地下水族科学館「もぐらんぴあ」といって、その名の通り見学施設が地下にありました。しかし、その場所が海岸に近かったために、大震災により施設はもろろん、展示生物などがほとんど流されてしまいました。ところが、カブトガニやクサガメなど一部の生き物たちの生存が確認され、2011年8月には場所を駅前に移して「まちなか水族館」として新たなスタートを切ったのです。再スタートにあたっては、東京海洋大学客員准教授の「さかなクン」が応援団長となり、展示生物やそのイラストを寄付するなどしてくれました。決して大きな水族館ではありませんが、復興のシンボル、地域住民の憩いの場として、多くの人

たちから親しまれています。

太古のロマンを感じる 「久慈琥珀博物館」と「内間木洞」

うちまさ

昔から久慈市のことを知っている方は、久慈市といえば琥珀というイメージが強いのではないのでしょうか。琥珀とは『あまちゃん』で塩見省三さん演じる勉さんが喫茶「リアス」でいつも磨いていたアレです。具体的にいうと、琥珀とは数千万年〜数億年前の樹木の樹脂が土砂などに埋もれて化石化したもので、古くから宝石として重宝され、日本では縄文時代から宝玉の素材として使用されてきました。ちなみに、久慈市は国内最大の産地として知られています。

そんな久慈市の琥珀の魅力を知らずに最適なのが「久慈琥珀博物館」です(写真⑧)。博物館は新館と本館に分かれており、久慈地方と世界の琥珀について「神秘のタイムカプセル」と「人と琥珀」という二つのテーマに分けて展示・解説が行われています。琥珀の原石はもろろん、虫入り琥珀や芸術的な工芸品など、多くの資料が展示されています。さらに、大正7年頃まで実際に琥珀が採掘された坑道跡も公開されているほか、採掘体験もできるようなっているのです。琥珀発掘を身近に感じることができると思います。最近、

久慈市では恐竜の化石が大量に出土しているのが、ひよつとしたら恐竜の化石を発見することもできるかもしれません。

もう少し太古のロマンを感じるために、内間木洞に向かってみましょう(写真⑨)。ここは久慈市の南西部にある鍾乳洞で、岩手県の「天然記念物」にも指定されています。洞窟の総延長は6350メートル以上とされており、国内有数の巨大鍾乳洞で、冬期間に数多くの氷筈が発生することでも有名です。氷筈とは冬場に洞窟内の天井から滴り落ちた水滴が氷になり、だんだんと上に伸びて柱のようになったものです。なお、内間木洞は2月第二日曜日の「内間木洞氷筈観祭」で、7月第二日曜日の「内間木洞まつり」の際のみ見学することができます。なので、是非ともチェックしておいてください。

ところで『あまちゃん』で登場した北三陸鉄道のモデルでもある三陸鉄道(写真⑩)は、来年4月に全線で運転が再開する予定になっています。これはいよいよ復興も一段落という感じになりますが、東北全体の復興はまだまだこれからといった感じですね。だからこそ来年も是非、東北と東北復興の動きに注目し続けてください。



⑩ 三陸鉄道は来年4月に全線で運転を再開するが、東北全体の復興はこれからだ



⑨ 岩手県の天然記念物にも指定されている内間木洞は、国内有数の巨大鍾乳洞だ



⑧ 琥珀の魅力を知らることができる、久慈琥珀博物館

経営革新等支援機関の動向と高まる税理士への期待 ①

2012年8月30日に「中小企業経営力強化支援法」が施行され、これに伴い、中小企業・小規模事業者に対して専門性の高い支援事業を行う経営革新等支援機関(以下、認定支援機関)を認定する制度が創設されました。現在、1万7445機関が認定されており、その7割以上を税理士・税理士法人が占めています。今号では、本認定制度に対する、日本税理士会連合会の見解と取り組みについて、そして政府系金融機関である日本政策金融公庫の2つの融資制度について、特別インタビューを通してご紹介いたします。さらに、ミロク会計人会連合会の平川忠雄会長より、本認定制度の活用促進について、会員先生方へのメッセージをご紹介します。次号では、本認定制度の管轄機関である中小企業庁への特別インタビューを通して、本認定制度に関する新たな施策や取り組みについてご紹介いたします。また、認定支援機関として活躍中の会計事務所における支援事例もご紹介する予定です。

認定支援機関となる税理士とその顧問先企業のメリットとは

認定支援機関の制度は、税務、金融および企業財務に関する専門的知識や中小企業支援に係る実務経験が一定レベル以上の個人、法人、中小企業支援機関等を国が認定することにより、中小企業に対して専門性の高い支援を行うための体制を整備するものです。

認定支援機関の主たる役割は、中小企業の財務その他の経営状況について、調査・分析し、経営改善等の事業計画の策定や実行支援、その後のフォローアップを行うことです。そうした中で、表1のとおり、認定支援機関制度と連携した補助事業・税制等の施策ツールの整備も進められています。

中小企業経営力強化支援法が施行されてから1年以上が経ちます。税理士会の会員が7万人超ですので、認定支援機関となつている税理士の比率は20%弱に留まっていると推計されます。また、経営改善の支援実績についても十分とは言えないため、今後、本認定制度が機能するか否かは、税理士の先生方のご活躍にかかっていると云っても過言ではありません。

これらの状況を踏まえ、本認定制度をより多角的に捉えるべく、日本税理士会連合会(日税連)と日本政策金融公庫(日本公庫)の見解や施策について伺いました。

<表1> 認定支援機関を活用することで、中小企業が受けられる支援制度

種類	名称	支援内容
融資	経営力強化保証制度	中小企業が外部の専門家(金融機関、認定支援機関)の支援を受けつつ、経営改善に取り組む場合に信用保証協会の保証料を減免(概ね▲0.2%)
融資	中小企業経営力強化資金	経営革新または異分野の中小企業と連携した新事業分野の開拓等により、市場の創出・開拓(新規開業含む)を行おうとする事業者で、認定支援機関の指導やアドバイスを受けながら、自ら事業計画の策定を行っている場合に、日本政策金融公庫等から特別利率で受けられる融資
融資	経営支援型セーフティネット貸付(経営環境変化対応資金)	一時的に資金繰りが悪化している事業者が、日本政策金融公庫等から設備投資と運転資金に限り受けられる融資。運転資金による利用で、認定支援機関の支援を受けている場合、基準利率が最大▲0.6%下がる
融資関連	借換保証制度	認定支援機関の支援を受けて経営改善に取り組む場合、経営力強化保証を中心に、信用保証協会の保証を利用した複数の借入債務を一本化し、月々の返済負担を軽減
補助	経営改善計画策定支援事業	認定支援機関が経営改善計画の策定を支援し、中小企業・小規模事業者が認定支援機関に対し負担する経営改善計画策定支援に要する計画策定費用及びフォローアップ費用の総額について、経営改善支援センターが3分の2(上限200万円)を負担する
補助	創業補助金制度	認定支援機関の支援を受け、起業・創業、第二創業を行う者が、その創業事業費等に要する経費の一部を補助する
補助	ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金	きめ細かく顧客ニーズをとらえる創意工夫に取り組むために、認定支援機関等と連携しつつ、ものづくり中小企業・小規模事業者が実施する試作開発や設備投資等を支援
税制	商業・サービス業・農林水産業活性化税制	青色申告書を提出する中小企業者等において認定支援機関等から経営改善に関する指導および助言を受けている場合、「建物附属設備」で60万円以上、「器具及び備品」で30万円以上の設備取得価格のうち、30%の特別償却または7%の税額控除を受けることができる

なお、認定支援機関は、技術、知財管理、海外展開等をはじめ、さまざまな分野の専門家の派遣を受けられることから、中小企業・小規模事業者は専門性の高い支援を受けられます。 ※詳細は、各地の地方経済産業局担当課までお問い合わせください。

税理士会の全会員が 認定支援機関となり、 中小企業経営者を支えるべき

本認定制度において、国は税理士の職能を重視し積極的な参加を求めています。日税連としても、認定支援機関を担うのは税理士が最も相応しいと考えています。中小企業経営者の約7割が、最も信頼できる相談相手に税理士を挙げるといふ調査結果もあるように、私たち税理士は顧問先にとって最も身近な存在であり、よき理解者であり、これまでも経営者のさまざまな相談に親身に応えてきました。また、税理士は日常業務の中で、資金繰り表や経営計画の策定指導を行っているため、認定支援機関が行う業務は、税理士の日常業務の延長線上にあり、決してハードルの高いものではないと思います。

従って、日税連としては、ある特定の税理士だけではなく、全会員が認定支援機関となり、より効果的な方法で中小企業を支援していくことが好ましく、それにより、税理士が「中小企業の税務・財務・金融・経営支援の担い手」として対外的に認められれば、更なる業界の発展につながると考えています。但し、本質的には税理士の業務拡大というよりも、顧問先の経営を守ることには大きな意義があると考えます。

正しい会計ルールに基づいた 決算書が大前提

日税連では、今年7月に中小企業対策特別委員会を立ち上げました。本委員会は、中小会計指針や中小会計要領・会計参与・認定支援機関の普及促進を目的としています。特に、認定支援機関に関しては支援実績の事例情報が少ないので、金融機関や信用保証協会、日本政策金融公庫、経営改善支援センターなどと連携しながら情報収集に努め、会報や研修を通して、会員の皆様方に有益な情報発信を行い、認定支援機関への登録促進や各種施策の活用を促していく予定です。

一方、経営改善計画書の作成において重要なことは、中小会計指針や中小会計要領などの正式な会計ルールに基づいた決算書を活用することです。これにより、計算書類の信頼性が高まると同時に、会社の実態を正確に反映した財務情報を基に経営計画書を策定することが可能になります。その結果、企業の継続的發展、経営力向上、資金調達力の向上につながるのです。

皆で協力して 「孤独な経営者」 を支援する

会員の支援実績については、現在調査中ですが、現状、経営改善よりも創業補助金に関する実績の方が多くなっているようです。その背景としては、金融機関が中小企業円滑化法が終了してからも、借入金返済条件のリスクに柔軟に対応していることなどが考えられますが、この状況もいずれは変化してくるはずですが、だからこそ、私たち税理士が認定支援機関として、中小企業を多角的に支援できる体制を整えておく必要があるのです。

中小企業の経営者は、厳しい経営環境の中でさまざまな経営判断を求められ、孤独を感じる方が多いようです。私たち税理士は、地域金融機関や他の専門家の方々をはじめ、皆で協力して

孤独な経営者を支えていくことが大切です。

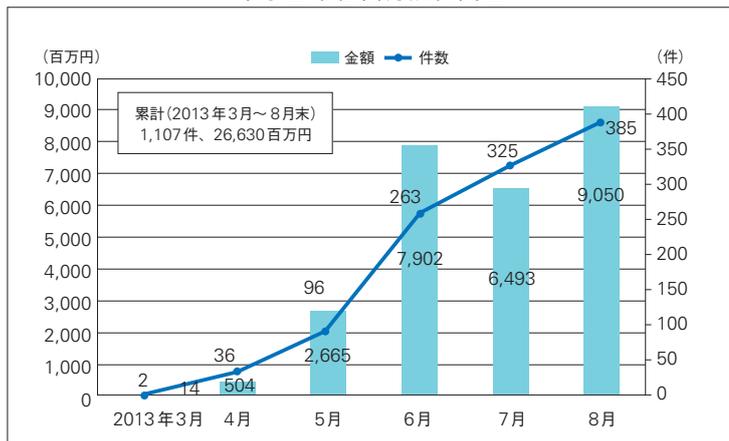
本認定制度における課題や問題点については、必要に応じて中小企業庁に意見を述べています。今後、地域金融機関や信用保証協会、日本政策金融公庫、経営改善支援センターなど、さまざまな方々との連携を深め、税理士が認定支援機関として、中小企業の経営改善に寄与できる環境づくりに貢献したいと考えています。



**認定支援機関と連携した
2つの融資制度を実施**

日本政策金融公庫（以下、日本公庫）が設けている、認定支援機関に関する融資制度は「中小企業経営力強化資金」と「経営支援型セーフティネット貸付（経営環境変化対応資金）」の2つです。中小企業経営力強化資金は、経営革新や異分野の中小企業と連携した新事

中小企業経営力強化資金



経営支援型セーフティネット貸付(経営環境変化対応資金)



業分野の開拓などを行う中小企業が、認定支援機関の指導やアドバイスを受ける場合、自ら事業計画の策定を行っている場合に受けられる融資です。資金使途は、事業計画の実施のための設備資金および運転資金に限られ、限度額は国民生活事業（小規模事業者向け）の場合で7200万円（うち運転資金4800万円）、中小企業事業（中

企業者向け）の場合で7億2000万円（うち運転資金2億5000万円）となっています。特徴としては、金利が基準利率から0・4割引き下げられる点です。また、融資額のうち1500万円まで、通常、無担保・無保証で融資を行う場合に必要ない上乗せ利率が不要となっています（国民生活事業）。ただし、この融資を受けるには認定支援機関の支援業務などが記載された事業計画書の提出が必須となっているほか、融資後は事業計画の進捗状況の報告義務が生じます。

融資実績は増加傾向に

一方、経営支援型セーフティネット貸付（経営環境変化対応資金）は、一定の借入負担があり、一時的に資金繰りが悪化している事業者が対象となります。資金使途は企業維持上、緊急に必要な設備資金および経営基盤の強化を図るために必要な運転資金に限られ、限度額は国民生活事業で4800万円、中小企業事業で7億2000万円となっています。経営改善が迫られており、認定支援機関または公庫の経営指導を受けて事業計画書を策定し、融資後に進捗を報告する場合、運転資



金については、基準利率が0・4割下がります。さらに、雇用の維持または拡大を図る場合は、別途、基準利率が0・2割下がりますので、最大で基本利率から0・6割を差し引かれます。融資実績に関しては、双方とも増加傾向にあります（図表参照）。特に国民生活事業の融資は裾野が広く、全てのお客様へのサポートが難しい面がありますので、今後とも税理士をはじめとする認定支援機関の皆様にご協力いただきたいと思っています。また、日本公庫ではホームページ上で融資の際に必要な事業計画書の雛形を提供しています。簡易に作成できるようなフォーマットになっているので、是非ともご利用ください。



ミロク会計人会連合会
平川忠雄 会長

本認定制度を活用した関与先支援を

「税理士は関与先の税務・会計だけを担えばいい」という時代が改革期を迎えようとしています。まさに税理士業界の意識改革が必要な状況と言えます。税理士はもともと税務・会計業務に主軸を置いてきましたが、関与先である中小企業の7割近くが赤字を出している状況を踏まえますと、何よりもまず、中小企業を活性化することが私たち税理士に求められています。つまり、これからは税務・会計のみならず、経営支援という新業務がツールとして必要になります。こういった状況下で施行された中小企業経営力強化支援法に基づくと本認定制度は、税理士業務において重視すべきものだと思います。それは、私たち税理士が認定支援機関となることで、今まで以上に中小企業の経営力アップや経営改善・収益拡充に貢献できるようなるからです。

すでに、会員の皆様においては、認定支援機関に認定されている方も多くおられることと思います。私が代表社員を務める税理士法人平川会計パートナーズも認定支援機関に登録されています。制度ができてから日が浅いので、支援実績はまだわずかですが、スタッフ一丸となってマニュアル策定や情報収集などに努めているところで、会員の皆様の中には「経営に関するア

ドバイスは控える」「企業の経営を左右するようなりスクは負わない」という業務方針を貫いている会員事務所もあるかと思えます。しかし、これからの税理士業務には企業を活性化する経営支援の能力が求められているといえます。本認定制度を経営支援業務に踏み出す良い機会と認識していただきたいと考えます。

また、認定支援機関として中小企業支援を行う場合、中小会計要領に基づく決算書を作成することが求められてきますが、この点には少々注意が必要になります。中小会計要領に準拠すると、決算書において賞与引当金、退職給付引当金など、税務上損金とならない費用を計上する必要があるからです。これにより、決算書類上は過少利益になり、融資を受ける際に逆に不利になってしまうというデメリットがありますが、今、金融機関の方々も会計や経営についての知識をより深めようとしていきますから対応は可能といえます。「私たち税理士は経営指導と扶助の実務者」として、関与先の業績向上の必然性を行政や金融機関にもしっかり伝え、理解していただけるように努めることで更なる企業への貢献度を高める必要があります。会社法や中小会計要領をどの程度遵守すべきか、またどのよう

有利活用すべきかといったマニュアル策定の必要も出てきますので、ミロク会計人会としてもそういった情報収集に力を入れ、積極的に情報発信していくことが求められると思います。

会員の先生方もご承知の通り、グローバル経済の中で、税理士業界を取り巻く環境も大きく変化しております。私たちは、これからの税理士に求められる新時代へのニーズの認識を深めて意識改革を行い、関与先の業務拡充・経営改善に積極的に取り組むスタンスが関与先との共存共栄に寄与するといえます。今後、税務の分野はますます合理化され、相対的な付加価値は拡大され難い状況が予測されます。私たちが生き残り、更なる新時代業務へ転換する道は、中小企業の経営を多角的に支援し、ともに向上することにありま

すすので、先端的視野にて準備と改革を進めることが重要です。

会員の先生方におかれましては、改めて本認定制度への理解を深めていただき、関与先企業の発展、成長に資する経営支援事業に積極的に取り組んでいただきたいと思います。また、ミロク会計人会のさらなる先進的な取り組み、活動を推進し、新情報提供などの拡充を行いますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

我が事務所の顧問先紹介

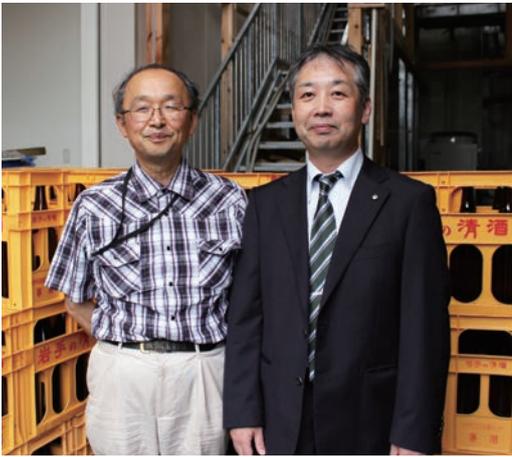
株式会社 菱屋酒造店

東日本大震災から2年半以上が経過しましたが、今もなお被災地では復興に向けて取り組みが続いています。岩手県宮古市にある老舗の造り酒屋、株式会社菱屋酒造店も復興に向けて奮闘している企業の一つ。津波によって建物の一部が流されてしまいましたが、2011年末には再び仕込みを始め、翌年には復興の思いを込めた新商品「フェニックス」を発売しました。そんな同社の取り組みを、山崎仁志税理士事務所の山崎仁志先生にインタビューしていただきました。

純米酒にこだわり差別化を図る

山崎仁志先生（以下、敬称略） まずは創業の経緯を教えてください。

斉藤鉄郎専務（以下、敬称略） 古くからこの宮古市周辺には美しい湧き水があつたため、かつては5社ほど造り酒



左から斉藤鉄郎専務、山崎仁志先生

屋があつたようですが、それらは戦時下に国策で統合されて下閉伊酒造という会社になりました。その後、当社はそこから分離し、現在は宮古市に残っている唯一の造り酒屋として日本酒を醸造しています。近年は宮古市や盛岡市を中心に代表銘柄「千両男山」を製造・販売してきました。なお、創業時から使っている湧き水は今も仕込み水などに使っています。

山崎 斉藤専務はもともと酒造りとは関係のない仕事をしていたそうですね。

斉藤 私は生まれも育ちも神戸で、当社の事業は妻の家業でした。とはいえ、妻と結婚してから家業を継ぐつもりはなく、大手メーカーのグループ企業でエンジニアとして働いていました。2002年に宮古市に移住し、03年前社長である義父が亡くなったことを

契機に、会社経営を手伝うことになったのです。それまでは日本酒へのこだわりはあまりなかったのですが、酒造りに携わる中で、次第に自分たちの蔵と酒に愛着を持つようになりました。

山崎 現在は純米酒にこだわった酒造りをしているようですが、その方針は以前からのもののでしょうか。

斉藤 多くの造り酒屋と同様、以前は主に精米歩合[※]が高く、醸造アルコールを添加した酒を中心に醸造していました。しかし、00年頃はすでに全国的に日本酒の売り上げが落ち込んでおり、従来と同じ酒造り方針で生き残るのは難しいと考え、精米歩合が低い純米酒にこだわり、他社との差別化を図ることにしたのです。そして、純米酒（精米歩合70[※]以下）のほか、吟醸酒（精米歩合60[※]以下）、大吟醸酒（精米歩合50[※]以下）など、さまざまなラインナップを醸造するようになりました。

山崎 醸造の方針を変更されるに当たり、さまざまな苦労があつたのではないですか。

斉藤 精米歩合を低くするということは酒米をとことん削るといことなもので、どうしてもコスト高になってしまっています。そのため、最初は本当にやっつけているのかという不安もありました。しかし、05年から辻村勝俊さんという著名な杜氏が当社の仕込みを担当して

くれるようになったこともあり、思い切って純米酒にこだわることにしたのです。

ちなみに、辻村さんは「田酒」や「喜久泉」で知られる西田酒造（青森県青森市）で杜氏を務めていた方で、現在は当社の「千両男山」をはじめ、さまざまな酒を仕込んでくれています。おかげさまで、07年には全国新酒鑑評会で金賞を獲得することもできました。

「奇跡の酒」が会社の再建に貢献

山崎 着実に進化を遂げていた矢先に、東日本大震災が発生したのです。震災ではどのような被害を受けましたか。

斉藤 当社は宮古湾からわずか200[※]という距離にあるため、津波で2階立ての建物の1階部分および住宅が流され、貯蔵タンクや仕込み中の酒をほとんど失ってしまいました。また女性の従業員やパートナーさんが、やはり住居が流されるなどの被害を受けました。

山崎 そのような状況に置かれながら、再び酒造りに取り組まれたのには頭が下がります。どのような気持ちで再起を決意したのですか。

斉藤 正直、被災した当初は愕然としてしまい、再起しようという気持ちにはなれませんでした。事業を再開するには設備投資などでさらに負債を抱える必要がありましたから、それならい

※精米歩合…精米後の白米の、元の玄米に対する重量の割合



菱屋酒造店のラインアップ。写真中央にあるのが復興のシンボルとなった「フェニックス」。売れ筋の「千両男山 純米大吟醸」(左から2番目)は芳醇な香りとキレを同時に楽しめる逸品

つそ細々と今ある負債を返していければいいのではないかと思つたのです。

しかし、妻の母で5代目の三浦睦子社長は何とか事業を再開させたい、先祖代々の暖簾を下ろしたくないという強い思いがありました。それに地元の皆様さんの声援や後押しも大きく、私も次第にやる気を取り戻し、再起を決意したので。また、湧き水が無事だったことも大きな支えになりました。

山崎 震災後の取り組みについてお聞かせください。
齊藤 震災で電気や水道、下水などのインフラが停止し、保管が難しくなつたので、最初に決めたのが在庫を売り切ることでした。2階に残つた在庫の販売などは5月にはほぼ完了し、再開のために仕込庫の片付けを行つてい

るとき、タンクに約9000リットルの酒が残っていることが分りました。酒を詰める機械なども流されていたので、この酒を社長の実家(泉金酒造、岩手県下閉伊郡岩泉町)で瓶詰めしてもらい販売することができました。

山崎 売れ行きはいかがでしたか。
齊藤 新聞などで「奇跡の酒」として話題になったので、詰める端から売れていき、8月末にはほぼ完売となりました。給与を支払う資金がないので従業員やパートの人は4月で一旦解雇しました。会社の方は宮古市の瓦礫撤去などが7月初旬には完了し、再建作業に取り掛かりました。この「奇跡の酒」は本場に良いタイミングで販売することができ、会社の再建に役立ちました。

最初は宮古市の助成金や復興支援ファンドを基礎にして、再建計画を立てました。9月から工事を始めて11月末に完了し、12月に仕込みを始めました。解雇した従業員やパートに声を掛けたところ、6人中4人が戻ってきてくれました。今は国の補助金の対象になったので借金は減りました。

そして、12年の春には復興への思いを込めて「フェニックス」という酒を発売しました。いまやこの銘柄は当社の代表銘柄「千両男山」に匹敵するほどの売り上げを誇るようになり、当社の定番商品になっています。

首都圏への販路拡大に注力する

山崎 復興支援の後押しもあり、販路も少し広がったのではないですか。

齊藤 従来は地産地消の酒だったので、復興支援ということで、全国のお客様から問い合わせをいただくようになりました。当社の酒を購入したのを機に、その後、リピーターになってくれたお客様もいらっしゃいます。

もちろん、地元での販路開拓にも力を入れていきます。当社では震災前から毎年「千両男山を楽しむ会」を開催し、地元の方々をお招きしてその年にできた酒を味わっていただくようにしています。今年は4月9日に開催し、山本正徳宮古市長らにもご出席いただきました。全国的に販路を開拓していく一方で、足元の市場である宮古市での地盤を安定させていきたいと思えます。

山崎 今後の展望についてお聞かせください。

齊藤 販路が徐々に広がってきたとはいえ、蔵の再建のために背負った負債はそう簡単にはなくなりません。これから首都圏にもっと積極的に営業を仕掛け、さらに販路を拡大していかなければなりません。しかし、今のところ当社の運営は私が現場にいないと成り立たない状態です。そこで、出荷伝票のデジタル化と顧客情報のデータベ

ーシ化などをして業務の効率化を進め、私自身が直接、首都圏の酒屋やスーパー、飲食店に出かけて営業するなど、さらに販路を拡大して行くための体制を整えていきたいと考えています。

山崎 ますますのご活躍を期待しております。

齊藤専務について

山崎先生 三浦社長は86歳になりますが、今もなお酒造りへの情熱をお持ちです。礼節を重んじながら酒造りに取り組む姿勢には、いつも感心させられてきました。そんな三浦社長を支え、現在の菱屋酒造を引っ張っているのが齊藤専務です。齊藤専務が経営にタッチするようになってから、菱屋酒造店は商品の高品質化や業務の効率化などを図り続けています。東日本震災という逆境を跳ね返し、販路を全国に拡大していくことに期待しています。

■訪問事務所概要

事務所名:山崎仁志税理士事務所
 所長:山崎 仁志
 住所:〒027-0053
 岩手県宮古市長町1-3-14
 TEL:0193-62-4443

■紹介顧問先概要

社名:株式会社 菱屋酒造店
 代表者:三浦 睦子
 設立:1852年
 資本金:1,000万円
 事業内容:日本酒の製造・販売
 所在地:〒027-0006
 岩手県宮古市鎌ヶ崎下町5-24
 TEL:0193-62-3128
<http://homepage3.nifty.com/hisiya/>

ミロク会計人会連合会ホームページ リニューアルの経過報告

本年1月の広報委員会にて、ミロク会計人会連合会のホームページ（HP）をリニューアルすることが決定しました。その方向性は、次の3点です。

1. HPにおけるインフラの刷新

サイト全体の再構築に合わせて、サイトデザインを一新。拡張性が高く、リアルタイムな情報更新が可能なサイト構築を目指し、インフラを刷新する。

2. 会員同士のコミュニティの強化

会員間のコミュニケーションをより活性化させ、本会の価値を一層高めるために、サイト上でのコミュニティ機能の仕組みをつくる。

3. 本会のブランディングの強化

本会の活動内容告知をはじめ、その優位性や独自性などを発信し、本会の認知度の向上や理解度の促進を目指す。

これらを基軸に具体的な施策を検討し、3カ年計画でHP改修を完成させることが、今回のリニューアル計画の全体像です。本年11月には第一弾として「1. HPにおけるインフラの刷新」を中心に、サイト構造とデザインを一新した新HPがオープンとなります。

リニューアルのポイント

今回の主な改修ポイントは、掲載する情報を精査した上で、HPにアクセスした人にとって分かりやすいように整理・配置し直したことです。

デザイン面では、ブルーを基調に一新することで、MJSと会計人会の「つながり」を表現しました。また、コンテンツを整理し、ユーザビリティの向上を図っています。

さらに、これまで会員向けに構築していたサイト構成を見直し、非会員（職業会計人全般）も意識したものと変更しました。本会の概要紹介や活動報告、セミナー・研修開催の案内などのコンテンツを強調することで、非会員の方や新規

ミロク会計人会連合会HPのトップイメージです。(*)



入会者からのアクセス数向上を目指します。他にも、入会案内や相談窓口をトップページなどに明記するなど、新規会員獲得に向けた施策を行っています。

今後のリニューアルの進捗状況につきまして、誌面を通じて随時報告してまいります。



お知らせ一覧もすっきり見やすいものに変更予定です。(*)

※デザインや内容には変更が生じる場合がございます



会 計 人 の

リレーエッセイ

東北ミロク会計人会 大友 聡 (秋田県秋田市)

「みなさまどうぞ秋田においでください！」

「あきたにしました。」これは、今年の10月1日～12月31日まで行われる秋田デスティネーションキャンペーン※のキャッチコピーです。この言葉の意味は、日本各地の人を「わすれていた秋田」に向かわせる静かなフリーズで、震災以後の日本をとらえながら、もういちど日本を考えてみよう！ そのため、(ニッポンがそのままある)「あきた」に行こう！ということだそうです。

秋田県の概要ですが、位置は首都東京のほぼ真北450km、北京やマドリッド、ニューヨークなど世界の大都市とほぼ同じ緯度上(北緯40度)にあります。総面積は1万1636km²、全国第6位の広さで、総人口は、約105万人(2013年8月現在)です。ちなみに税理士の登録者数は、245名です。

さて、このキャンペーンでは、秋田が守り、育ててきた豊かな「自然」「食」「温泉」「まごころ」をテーマに、各エリアの秀逸な素材を活かした旅を、全国の人々に提案します。

秋田ならではの、こだわりの温泉や全県に広がる秘湯、新米で調理する「さりたんぼ鍋」「稲庭うどん」などの食や、例年10月中旬頃から見頃を迎える色鮮やかな紅葉、秋田ならではの芸術や生活文化の体験を通じ、地域が一体となって「おもてなし」をする予定です。

中心的な観光地は、北部では、世界遺産の



秋田デスティネーションキャンペーンロゴ



このほかにも見所はたくさんございます。私も秋田で仕事をしていますと、やはりどこかのんびりしてしまいます。秋田新幹線も在来線を利用してゆっくりと走っています。しかし、そんなところがまた時間の流れの違いを感じられるよいところだと思っております。どうぞ、みなさま、ゆったりとした(ニッポンがそのままある)秋田を体感しにぜひおいでください。

白神山地、紅葉の美しい十和田湖、南部では日本海の海岸に聳え立つ鳥海山、県央部では琵琶湖に次ぐ大きな湖を干拓して水田地帯とした大潟村、そして「なまはげ」で有名な男鹿半島さらに内陸部では日本で一番深い田沢湖と武家屋敷のある角館です。

※JR東日本と秋田県観光キャンペーン推進協議会が合同で行うキャンペーン

表紙の写真



「九十九島と鳥海山」(秋田県にかほ市)

秋田県と山形県の県境に位置し、日本海にもほど近い鳥海山は、

標高2,236mの独立峰として東北で最も高い山です。かつてその麓には、「九十九」とも言われる数多くの島が入り江に浮かぶ、松島と並び称されるほどの景勝地が広がっていました。その景観は文化元年(1804年)の象潟(きさかた)地震の際の海底隆起によって失われてしまいましたが、島々は現在、水田の中に点在し、往時の面影を伝えています。

月刊 税理士事務所 Channel

通巻387号

- 発行 株式会社ミロク情報サービス
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-29-1
TEL. 03-5361-6309 (広報・IRチーム)
- 発行人 是枝 周樹
- 編集企画 ミロク会計人会連合会広報委員会
ミロク会計人会事務局、広報・IRチーム
- 配信制作 東方通信社
- 印刷 株式会社シナノ
- 購読申込 株式会社ミロク情報サービス
- 禁無断転載

※本誌に掲載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

Empowered by Innovation **NEC**

大画面と、Windows® 7が、心強い。



NECがおすすめするWindows® 7.

Windows® 7 Professional

マゼック mazec 手書き文字入力

12.1型大画面

軽量 約952g

長時間駆動 約7.6時間



バーサプロ VersaPro タイプ VZ

©Windows® 7 Professional 32ビット with SP1 正規版 ©インテル® Celeron® プロセッサ 857 (1.20GHz) ©12.1型LED液晶、タッチパネル付(抵抗膜方式) XGA ©64GB SSD/128GB SSD選択可能 ©オンボード2GB×メモリ(最大4GB搭載可能) ©無線LAN(IEEE802.11a/b/g/n) & X(i) (クロックシフト対応)ワイヤレスWAN(LTE)搭載可能 ©セキュリティアプローチ TPM(TCG v1.2準拠) ©タッチペン2本添付

タイプVZ

検索

企業のタブレット活用を、豊富なラインナップとソリューションで支援。

 **NECのスマートデバイス**

ビジネス PC は NEC

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面を使用しています。●Intel、インテル、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Celeron、Celeron Inside は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。●「X(i)」、「X(i) クロックシフト」は、株式会社 NTTドコモの商標または登録商標です。

Mate & VersaPro

<http://jpn.nec.com/>

人と地球にやさしい情報社会へ